

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500306		
法人名	社会福祉法人 寿清会		
事業所名	グループホーム笹森の屋	ユニット名	笹の屋
所在地	宮城県大崎市古川清滝字笹森118番地1		
自己評価作成日	平成 25年 10月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○季節感を感じとれる環境と、入居者様が喜んで頂ける、行事、イベントが豊富 ○地域行事への参加や小学校の定期慰問、地域ボランティアによる協力体制が整備されている ○出来る事への配慮、選択・決定の自由 ○本人の意欲向上、やりがいを感じる支援を行なっている。○グループホームの特性をいかし、普段の生活の中で生活リハビリを通じて自身回復の取り組みを行なっている。○社会生活の継続に向けて外出、買い物、ドライブ等の支援に取り組んでいる。○積極的な地域行事への参加、ボランティアの受け入れ及び協力を行なっている。○職員のチームケアへの取り組みに力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年11月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は果樹園に囲まれ季節感を満喫できる環境の中にある。開設12年、地域との交流も充実、行事への参加も積極的で、市町村との連携も良く本日の外部評価も2名の立会いを頂いた。特に小学校の年に3度の体験学習の慰問は、入居者の楽しみの一つになっている。家族と入居者のエンジョイプランに沿って実施され、それらの様子の写真を家族に紹介し喜ばれている。これはグループホームとの強い絆の要因になっている。同一敷地にケアハウス、デイサービスの施設があり、防災訓練、地域のボランティアの催し物も合同で実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム笹森の屋)「ユニット名 笹の屋 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基にグループホームでの理念を作成し常に職員全員が共有できる所に配置し実践につなげている。	法人理念の他にグループホームの重点目標があり、昨年見直し事業計画に盛り込まれた。「残存能力を活かした手助け・・・、ケアプランの目標達成への手助け・・・」等、全職員はこれらを共有しケアの実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にも参加しており、地域行事、学校行事等にも参加しており施設行事にも地域の方を招いたり、ボランティアを含め交流の窓口は広げている。	町内会に加入、地域の祭りやクリスマス交流会、婦人部の花壇造り、公民館で開催のボランティアの歌や踊り、小学校の運動会や学芸会に招待され、ホーム行事に地域の人を招くなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事、施設行事等の交流の場や運営推進会議を通じて地域と施設の理解や支援を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年6回開催を目指し取り組んでいる。事業計画、年度目標、ケアサービス内容、活動内容等の取り組みを報告の上、意見要望等を施設全体、職員間で話し合いを行い業務やケアプラン等に繁栄させ改善に取り組んでいる。	2ヶ月に一度開催している。包括支援センター、区長、家族代表が参加し、現況報告、行事計画、要望等、議事録を確認した。無断外出の対応の話が出たが、再確認の意味で職員間で話合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは連絡を取り合い情報の交換、報告、連絡、相談を行い協力体制に取り組んでいる。	市町村担当者とは日常的に連絡を取り合い、情報の交換を行っている。グループホームのケアサービスの現況報告をしながら、ヒヤリハット事例や介護保険料改訂の相談等日常的な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関 居室の施錠を含め身体拘束を行わないケアの取り組みを実践している。身体拘束の必要性がある場合は家族と相談を行い検討をしている。	身体拘束の弊害をよく理解し、玄関 居室の施錠は行わないケアに取り組んでいる。過去には帰りたい願望の入居者がいたが、最近では玄関を出ても敷地外には出る事は無い。センサーで察知し静かに見守るケアを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、計画作成者にて防止に向けての職員に指導を行っており防止に努めている。研修等の機会には職員も参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体研修、介護支援専門員を中心に指導や学ぶ機会を設けており、個々に合わせた支援体制を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に家族との面談を実施し十分な話し合いを行い、契約書、重要事項説明書を用い説明をし理解・納得を得たうえで契約、解約を頂いている。改定の際は説明を行ったうえ同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とのコミュニケーションの中で意見や要望を頂いたり。家族連絡、面会時、運営推進会議など御家族様等より意見を頂いて、施設内にご意見箱を設けてユニット内 グループホーム全体としての意見として反映している。	運営推進会議や家族の訪問時に意見、要望を聞きそれらを運営に反映させている。意見箱の設置もしてある。契約時の重要事項説明書には第三者委員委嘱が明記されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のケース会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。 ・各委員会(給食・リスク・研修・レク・広報)に介護職員を配置し、各事業所の意見・課題など積極的に提案を聞き入れ運営に反映させている。	月に一度のケース会議、ユニット会議にて意見や提案を聞いている。法人全体の取り組みの中で、給食・研修・リスク等の委員会を設け責任を持たせ、意見や課題の提案をくみ取り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・雇用情勢が厳しい中、職員の定着率については給与水準と働き甲斐など、介護給付金や評価制度を活用しながら、常に働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人全体としてキャリアプランにより、育成研修計画があり研修委員会を通じ、外部研修や内部の勉強会や資格取得者のフォローアップにより、職員のスキルアップや意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・大崎地域包括ケア会議に職員を随時参加させ、地域の事例検討会や関係機関とのネットワークづくりなどの取組みを通じて、入居者サービスの質を向上させる努力をしている。 ・同業者との交流する機会を作ることもGH協議会の加入なども検討する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の相談及び、入居前・後等必要に応じ面談を行い、本人の様子、状況等を聞き少しでも安心感を持って頂ける支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談及び、入居前・後等必要に応じ面談を行い、本人の様子、状況等を聞き少しでも安心感を持って頂き、信頼して頂ける支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来館、電話等にて相談等があった際は状況を確認し、他のサービスや申請等情報や確認等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者として常に尊敬できる気持ちを持ち入居者に一人一人の思いを大切にし、年長者から教わりながら一緒に生活支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ状況や様子等の報告を行い、家族の思い、希望、要望を大切に、随時聞き入れる事で、本人、家族の双方にとってよりよいケアを行える支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り入居後もご家族、知人等に面会、外出協力の支援等を行い馴染みの関係継続に努めている。	個々の生活歴から人間関係等を確認し、スーパー、理・美容院や昔住んでいた場所へ買物帰りに寄り道する等している。家族による墓参や昔行きつけの食堂の夕食等馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味、嗜好、性格等を把握しながら活動によって配慮を行いお互いを支えあえる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時の状況によりますが、退去後の様子の確認を行う。相談等もあれば随時アドバイス等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が困っている行動、望んでいる事、発言等都度ご家族へ相談をしている。本人の以前の様子等をお聞きし、本人の思いを組み入れたより良いケアを行っている。	本人の生活歴と日常の生活の中から本人が何をしたいのか、して欲しいのかを把握する努力をしている。最近の事例では、身の回りの事や病院の予定日が気になっていた事が分かり対応した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ご親戚の方々から情報を頂きながら、これまでの暮らし等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守り、観察、バイタル測定等常に職員一人一人が状態を把握し周知できる様に、健康表、連絡ノートを活用し状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメント等各職員やご本人、ご家族等から意見を頂き、意見交換を行う事で、ご本人にとって最善の計画書を作成するように努力している。	チームによる、3ヶ月に一度介護計画書を見直した。本人のできる・できないこと、わかる・わからないことシートを作成し、モニタリングで検討している。本人、家族、他関係者と協議し目標を設定し計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、職員間のモニタリングシート入居者様気づきシートを活用し、情報の共有を行いより良いケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の事業所スペース及び設備品等を利用し、楽しみや喜びに繋げる支援をしている。又、特変時等は、法人内看護師に応援要請、処置、その他対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加や地元小学校の慰問や小学校行事に積極的に参加し、施設行事にも地域の方を招いたりしながら地域からの協力・支援を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりかかりつけ医療機関を利用している方は施設の協力医院を利用するか現在の医療機関を継続するか御家族様と相談を行っている。受診の際は日頃の生活状態や様子を記載しバイタル表と合わせて主治医へ報告し診察の結果や助言を頂いている。家族様にて受診対応が難しい方には職員対応している	家族、本人の希望するかかりつけ医が半数以上で家族同行となっている。その際には日常生活記録、バイタル表を提供している。協力医の受診は職員が同行し、結果は受診表に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院、かかりつけ医療機関、同法人の看護職員と随時相談を行い、体調不良や急変時の対応等の助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後本人の状態を確認しながら病院関係者、御家族様と情報交換、相談を行いながら今後の方向性を明確にし治療、退院後の生活に向けて支援を行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居面談時、契約時に契約書、重要事項説明書等を用いて方針や取り組みを伝えご理解を頂いたうえでご利用いただいている。入居後も本人・家族共今後の方向性の話し合いを行っている。また、他の医療機関、福祉施設等への情報交換を行い家族様に情報を提供したり安心ができる支援を行っている。	契約時に重要事項説明書で方針を説明している。一歩前進すべく、家族と面談の際、重度化・終末期生活支援に関する、覚書及び面談シートを交わす書式を作成中である。尚、事業所全体として方針を検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の内部研修を定期的実施。急変時や自己発生時には法人看護師の指示により対応を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	防災訓練を年2回実施している。避難経路及び緊急連絡網、防災マニュアルの整備を行っている。又、非常用食材等は一括して同敷地内の本部に一括して保管している。消防署との直結の非常用通報装置を整備している。スプリンクラー設置済み。非常時には地区区長を始め地域とも連携を図れるようにしている。	総合防災訓練をケアハウス・デイサービス・グループホーム合同で3月と10月(夜間想定)に実施している。前回地域の参加を指摘されていたが、今回は、地域の区長、民生委員の参加があり一歩前進していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの接し方はせず、敬意をもって馴染みの関係作りながら接している。又、羞恥心には十分に配慮し、さりげない声掛けをし他の人に分からない様配慮している。何を行うにも必ずご本人へ確認をいたし了承を得てから行うようにしている。	呼び名は名前にさん付け、失禁の際は羞恥心に配慮しさりげなく対応している。部屋の出入りはノックや入居者の了解の下で入室、トイレ誘導もさりげなく静かに声掛け、プライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活歴や性格を把握、考慮し様々な選択ができる環境を整え、出来るだけご自分で決定出来やすい様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを把握し生活リズムを崩さず快適に過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には十分に時間をかけ、衣類の選択、要望があれば化粧、マニキュアの実施をしている。又、訪問美容、理容等も希望により実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事調理、献立作成等は委託給食会社にて提供しているが、月一回給食委員会を行い食事についての意見交換を行っている。又、月に2回程度、献立、買い物、調理まで担当を決め入居者様と一緒に作り、食事をとっている。	メニューは栄養士がチェックし、献立表を作成する。月一度の給食委員会の意見交換があり、食事の準備、片付けは入居者と一緒に行っている。季節毎に行事食を提供し旬の食材を使い楽しい食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の能力に合わせた食事提供等の実施。嗜好に合わせてたり、禁止食も配慮している。食事量、水分量は都度チェック、記録に残し反映している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎年、協力歯科医による、歯科検診及び治療の実施をおこなっている。又、個々の機能を生かしながら食後の口腔ケアの実施を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやサイン、能力を把握し、声掛け誘導を行っている。失敗しない様入居者様個々一部介助や、見守りを行い、トイレで排泄出来る様支援を行なっている。	入居者の排泄パターンを記録し、サインを見逃さず声掛け、トイレ排泄を基本に自立にむけた支援をしている。紙おむつの人が紙パンツになった事例の話があった。夜間も時間を見てトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康表、排泄表、ご本人の様子等確認又、食事、水分、運動量を考慮し、便秘の改善に努めている。又、主治医の助言も都度頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に添えるように、身体、精神状態に合わせて、入浴していただいている。又、個人の能力に応じた残存機能を活用した支援を行っている。	日曜日以外は入居者の希望に合わせて柔軟に対応している。入浴拒否の場合は無理せずその気になるまで待つ。個々の残存機能を活かした支援に心がけている。脱衣所・浴室は床暖房である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不快な音、光等はさけ快適な温度等保ち、ご本人の休みたい時に休んで頂き、心地よく休める環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、作用、副作用、用量等確職員が把握できる様対応。誤嚥防止の為に、服薬マニュアルも作成し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様ごとの得意、不得意、嗜好等共有し、ご本人気兼ねなくやる気を持って行える様支援し、個々の役割を持った生活を行っている。又、誕生日や、行事(毎月)を行い皆さんで、お菓子や、ご馳走作りをしながら楽しく生活をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、外食、地域交流、観光等入居者様の希望に添ってスケジュールを組み実施している。又、ご家族との外出も随時出来る様配慮している。	日常的な散歩は、施設周囲を20分～30分かけて歩いている。事業計画にある祭りや、クリスマス会等数多くの行事に積極的に参加している。入居者の希望に沿って、スーパー、生まれた場所、家族との墓参り等積極的に外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力を考慮しながら、ご家族の了承を得ながらご本人が管理されたり、買い物時お金をお渡し、ご自分でお会計等行い、買い物した実感や楽しみを味わって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状等をご家族やご親戚、小学生、知人等へ書いている。又、定期交流のある小学生より招待状(運動会・学芸会等)を頂き、交流している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快音、温度、湿度、光等に十分留意し、温度、湿度計にて都度確認している。又、季節感の装飾に心掛けおり、入居者様と一緒に作成し、飾りつけをしている。周囲にも季節感のある草木、花があり、秋には果物(柿、栗、りんご、なし)等収穫し、見て、食べれる楽しみがある。	食堂、居間はゆったりとした造りになって、床暖房である。周囲の壁には季節感の飾りつけがあり、空調も良く管理され、空気の様子も無く快適である。施設の周囲の果樹園から入る光が心地よい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間、小上がり、ソファ等設置し、1人又は少人数で団欒できるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年愛着のある物を持参して頂き、居心地の良い住み慣れた部屋になるよう配慮している。又、ボード等を設置し、写真や工作等を飾れるように工夫している。	居室には本人の馴染のある物が持ち込まれている。壁にはボードが設置され趣味の絵や家族の写真が飾られている。部屋はエアコンが設置され、窓からは周囲の緑が眺められ落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険箇所の随時チェック、定期的なメンテナンスを行い、安全には十分配慮し、出来る限りご自分で行う事が出来る様環境整備に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500306		
法人名	社会福祉法人 寿清会		
事業所名	グループホーム笹森の屋	ユニット名	森の屋
所在地	宮城県大崎市古川清滝字笹森118番地1		
自己評価作成日	平成 25年 10月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○季節感を感じとれる環境と、入居者様が喜んで頂ける、行事、イベントが豊富 ○地域行事への参加や小学校の定期慰問、地域ボランティアによる協力体制が整備されている ○出来る事への配慮、選択・決定の自由 ○本人の意欲向上、やりがいを感じる支援を行なっている。○グループホームの特性をいかし、普段の生活の中で生活リハビリを通じて自身回復の取り組みを行なっている。○社会生活の継続に向けて外出、買い物、ドライブ等の支援に取り組んでいる。○積極的な地域行事への参加、ボランティアの受け入れ及び協力を行なっている。○職員のチームケアへの取り組みに力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年11月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は果樹園に囲まれ季節感を満喫できる環境の中にある。開設12年、地域との交流も充実、行事への参加も積極的で、市町村との連携も良く本日の外部評価も2名の立会いを頂いた。特に小学校の年に3度の体験学習の慰問は、入居者の楽しみの一つになっている。家族と入居者のエンジョイプランに沿って実施され、それらの様子の写真を家族に紹介し喜ばれている。これはグループホームとの強い絆の要因になっている。同一敷地にケアハウス、デイサービスの施設があり、防災訓練、地域のボランティアの催し物も合同で実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム笹森の屋)「ユニット名 森の屋 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基にグループホームでの理念を作成し常に職員全員が共有できる所に配置し実践につなげている。	法人理念の他にグループホームの重点目標があり、昨年見直し事業計画に盛り込まれた。「残存能力を活かした手助け・・・、ケアプランの目標達成への手助け・・・」等、全職員はこれらを共有しケアの実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にも参加しており、地域行事、学校行事等にも参加しており施設行事にも地域の方を招いたり、ボランティアを含め交流の窓口は広げている。	町内会に加入、地域の祭りやクリスマス交流会、婦人部の花壇造り、公民館で開催のボランティアの歌や踊り、小学校の運動会や学芸会に招待され、ホーム行事に地域の人を招くなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事、施設行事等の交流の場や運営推進会議を通じて地域と施設の理解や支援を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年6回開催を目指し取り組んでいる。事業計画、年度目標、ケアサービス内容、活動内容等の取り組みを報告の上、意見要望等を施設全体、職員間で話し合いを行い業務やケアプラン等に繁栄させ改善に取り組んでいる。	2ヶ月に一度開催している。包括支援センター、区長、家族代表が参加し、現況報告、行事計画、要望等、議事録を確認した。無断外出の対応の話が出たが、再確認の意味で職員間で話合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは連絡を取り合い情報の交換、報告、連絡、相談を行い協力体制に取り組んでいる。	市町村担当者とは日常的に連絡を取り合い、情報の交換を行っている。グループホームのケアサービスの現況報告をしながら、ヒヤリハット事例や介護保険料改訂の相談等日常的な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関 居室の施錠を含め身体拘束を行わないケアの取り組みを実践している。身体拘束の必要性がある場合は家族と相談を行い検討をしている。	身体拘束の弊害をよく理解し、玄関 居室の施錠は行わないケアに取り組んでいる。過去には帰りたい願望の入居者がいたが、最近では玄関を出ても敷地外には出る事は無い。センサーで察知し静かに見守るケアを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、計画作成者にて防止に向けての職員に指導を行っており防止に努めている。研修等の機会には職員も参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体研修、介護支援専門員を中心に指導や学ぶ機会を設けており、個々に合わせた支援体制を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に家族との面談を実施し十分な話し合いを行い、契約書、重要事項説明書を用い説明をし理解・納得を得たうえで契約、解約を頂いている。改定の際は説明を行ったうえ同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とのコミュニケーションの中で意見や要望を頂いたり。家族連絡、面会時、運営推進会議など御家族様等より意見を頂いて、施設内にご意見箱を設けてユニット内 グループホーム全体としての意見として反映している。	運営推進会議や家族の訪問時に意見、要望を聞きそれらを運営に反映させている。意見箱の設置もしてある。契約時の重要事項説明書には第三者委員委嘱が明記されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のケース会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。 ・各委員会(給食・リスク・研修・レク・広報)に介護職員を配置し、各事業所の意見・課題など積極的に提案を聞き入れ運営に反映させている。	月に一度のケース会議、ユニット会議にて意見や提案を聞いている。法人全体の取り組みの中で、給食・研修・リスク等の委員会を設け責任を持たせ、意見や課題の提案をくみ取り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・雇用情勢が厳しい中、職員の定着率については給与水準と働き甲斐など、介護給付金や評価制度を活用しながら、常に働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人全体としてキャリアプランにより、育成研修計画があり研修委員会を通じ、外部研修や内部の勉強会や資格取得者のフォローアップにより、職員のスキルアップや意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・大崎地域包括ケア会議に職員を随時参加させ、地域の事例検討会や関係機関とのネットワークづくりなどの取組みを通じて、入居者サービスの質を向上させる努力をしている。 ・同業者との交流する機会を作ることもGH協議会の加入なども検討する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添いケアを心掛け出来るだけ会話を増やすようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族様にお話を伺う聞き取りを行い、入居にあたっては出来るだけご家族様が抱えている不安などを解消できる方向でお手伝いをさせて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご様子を御家族様から伺い、入居後1ヶ月間ご本人の状況を観察しご本人にとって何が必要なサービスなのかを職員と話し合い、ご家族様へ報告しサービスの方向性をお伝えする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることはお手伝いいただき出来ない事はお手伝いして一緒に生活を送るようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が希望される場合はご家族様に入居者様の意思をお伝えして出来るだけ電話で会話をしたり外出ができる機会をご相談させていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様の面会はもちろんのこと親戚の方や知人の方の面会の機会を大切にしています。また、ご本人が望まれる場合は個別外出で馴染の場所へお連れすることもあります。	個々の生活歴から人間関係等を確認し、スーパー、理・美容院や昔住んでいた場所へ買物帰りに寄り道する等している。家族による墓参や昔行きつけの食堂の夕食等馴染の関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子から入居者様同士の関係を把握する様に努め、できるだけ互いに思いやりを持って支え合って生活していただく様に見守りを行っています。状況によっては職員が仲介に入る場合もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後もご家族様やご本人様から何かしらの要望や相談などがあればお伺いして情報提供などに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人一人が入居者様に対してアセスメントの見直し含め検討を行い、入居者様の現状の思いや意向などの把握に努めている。また、意思表示が困難な方に関しては職員がご本人の声や表情などから把握するよう努めている。	本人の生活歴と日常の生活の中から本人が何をしたいのか、して欲しいのかを把握する努力をしている。最近の事例では、身の回りの事や病院の予定日が気になっていた事が分かり対応した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に事前にご自宅へ調査に伺いご家族様やご本人様に生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過などをお伺いしてご本人の情報シートを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報を基に、入居後1ヶ月程様子を観察。色々な事を試みてご本人のADL、IADLはどの程度か。またどのような生活スタイルかを把握していくように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度会議を設けて入居者様の情報交換を行いご本人様が必要としている課題は何か、また課題に対してどのようなケアを行っていった方が良いかなど話し合いをして介護計画を作成しています。	チームによる、3ヶ月に一度介護計画書を見直した。本人のできる・できないこと、わかる・わからないことシートを作成し、モニタリングで検討している。本人、家族、他関係者と協議し目標を設定し計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録として排泄・水分・食事の摂取量・定時の血圧・服薬を記録。体調の変化や面会なども記録。記録することによって職員間の情報の共有に役立て、また介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の支援で、満足されているか、また不満足か定期的に見直しを行い色々な機能を利用して支えられるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加や地元小学校の慰問や小学校行事に積極的に参加し、施設行事にも地域の方を招いたりしながら地域からの協力・支援を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりかかりつけ医療機関を利用している方は施設の協力医院を利用するか現在の医療機関を継続するか御家族様と相談を行っている。受診の際は日頃の生活状態や様子を記載しバイタル表と合わせて主治医へ報告し診察の結果や助言を頂いている。家族様にて受診対応が難しい方には職員対応している	家族、本人の希望するかかりつけ医が半数以上で家族同行となっている。その際には日常生活記録、バイタル表を提供している。協力医の受診は職員が同行し、結果は受診表に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院、かかりつけ医療機関、同法人の看護職員と随時相談を行い、体調不良や急変時の対応等の助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後本人の状態を確認しながら病院関係者、御家族様と情報交換、相談を行いながら今後の方向性を明確にし治療、退院後の生活に向けて支援を行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居面談時、契約時に契約書、重要事項説明書等を用いて方針や取り組みを伝えご理解を頂いたうえでご利用いただいている。入居後も本人・家族共今後の方向性の話し合いを行っている。また、他の医療機関、福祉施設等への情報交換を行い家族様に情報を提供したり安心ができる支援を行っている。	契約時に重要事項説明書で方針を説明している。一歩前進すべく、家族と面談の際、重度化・終末期生活支援に関する、覚書及び面談シートを交わす書式を作成中である。尚、事業所全体として方針を検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の内部研修を定期的実施。急変時や自己発生時には法人看護師の指示により対応を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	防災訓練を年2回実施している。避難経路及び緊急連絡網、防災マニュアルの整備を行っている。又、非常用食材等は一括して同敷地内の本部に一括して保管している。消防署との直結の非常用通報装置を整備している。スプリンクラー設置済み。非常時には地区区長を始め地域とも連携を図れるようにしている。	総合防災訓練をケアハウス・デイサービス・グループホーム合同で3月と10月(夜間想定)に実施している。前回地域の参加を指摘されていたが、今回は、地域の区長、民生委員の参加があり一歩前進していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の性格や生活歴などを把握し目上の方への言葉遣いを意識し、自尊心やプライドを損ねないような声掛けを心掛けています。	呼び名は名前にさん付け、失禁の際は羞恥心に配慮しさりげなく対応している。部屋の出入りはノックや入居者の了解の下で入室、トイレ誘導もさりげなく静かに声掛け、プライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人の思いや希望を会話の中で聞き出す様にしています。また声掛けでもできるだけ選択肢を与え、選んでいただく様な声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の意思や行動を大切にしています。買い物などの希望に際しては、できるだけ希望に添えるようすがどうしてもその日希望に添えない時は近日中に希望に添えるよう対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に化粧をされる方に関しては化粧品を用意して居室に置いておきます。身だしなみやおしゃれに興味のある方に関しては手の届く所(鏡の前に)櫛を置いたりして自分で身だしなみやおしゃれができる様に心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の嗜好を伺いできるだけ嗜好に添った物を日々提供しています。また一緒に食事の準備をしたり片付けを行ったり、時には外食を交える企画を立てたりしています。	メニューは栄養士がチェックし、献立表を作成する。月一度の給食委員会の意見交換があり、食事の準備、片付けは入居者と一緒に行っている。季節毎に行事食を提供し旬の食材を使い楽しい食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の対応を行い食事にて栄養を摂取できる様にしています。水分量はどのくらい個人が摂取できているか記載し、水分摂取量が少ない方には嗜好にて対応を行い、できるだけ水分を摂っていただくように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・晩は口腔ケア行っていただく様に声掛け行っています。総入れ歯の方はブラシをあてないのでマウスウォッシュを準備し、嗽を行っていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を促し排泄の失敗を減らす様にしています。尿意、便意があっても間に合わず失敗してしまう方は排泄パターンを調べて早め早めに声掛けを行っています。	入居者の排泄パターンを記録し、サインを見逃さず声掛け、トイレ排泄を基本に自立にむけた支援をしている。紙おむつの人が紙パンツになった事例の話があった。夜間も時間を見てトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談して連日確認出来ない場合は早めに頓服として下剤を服用するように処方していただき便秘予防に努めています。また日常生活内では水分摂取、運動に気を配っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望される場合は都度優先的に入浴できるよう対応しています。またお声掛けして入浴する場合は事前に希望を伺うようにしています。	日曜日以外は入居者の希望に合わせて柔軟に対応している。入浴拒否の場合は無理せずその気になるまで待つ。個々の残存機能を活かした支援に心がけている。脱衣所・浴室は床暖房である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体力に応じて休息を促したり、個人的には適度に休息されている。不安で中々眠れない場合は安心して休んでいただけるように話を聞いて差し上げたり安心される様な声掛けを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する数が多い方は数回に分けて手渡しにてお渡しし、確実に服用していただけたかまで確認する。また、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用なども把握に努め、処方の変更になった際は特に変化に気をつけるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人の残存能力を把握して出来ることを役割として手伝っていただいています。手伝っていただいた後には必ず感謝の意を伝えるようにしています。入居者様の趣味(買い物、カラオケ、ドライブ、手芸など)を定期的に取り入れてケアを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出として週2回買い物日を設け買い物に出掛けたり地域行事の参加、月に一度通院などの外出を行っています。その他に、個人的に外出先の要望などある場合は要望ができるだけ実施できるようにご家族様や関係者に相談しケアを行っています。	日常的な散歩は、施設周囲を20分～30分かけて歩いている。事業計画にある祭りや、クリスマス会等数多くの行事に積極的に参加している。入居者の希望に沿って、スーパー、生まれた場所、家族との墓参り等積極的に外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	共同生活のためご本人の強い意志が無い場合は職員が所持していますが、外出や買い物に出掛けた場合は支払能力がある方にはお金を渡して職員付添のもと購入していただいたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様への電話を希望される入居者様には職員が取次ぎご本人変わり会話して頂いたり、側に職員が付添い電話の掛け方とお伝えして直接電話をかけていただいたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は入居者の方一人一人が安心して穏やかに生活できるような空間作りをこころがけています。食堂などは団らんできるソファアアを設置したり和室には冬場はこたつなどを設置しています。	食堂、居間はゆったりとした造りになって、床暖房である。周囲の壁には季節感の飾りつけがあり、空調も良く管理され、空気の様子も無く快適である。施設の周囲の果樹園から入る光が心地よい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースと少し離れた場所にソファアを設置。死角ともなる場所と日中であれば日が差す場所なので仲の良い入居者様はその場所を利用して思い思いに団らんを取られています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前情報としてどのような環境で過ごされていたのか伺いできるだけ同じような状況の空間作りを心掛けています。また、入居時に馴染の物を持ってきていただいたりしています。	居室には本人の馴染のある物が持ち込まれている。壁にはボードが設置され趣味の絵や家族の写真が飾られている。部屋はエアコンが設置され、窓からは周囲の緑が眺められ落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活が送れるように「できること」「わかること」を把握し、建物内の設備について職員同士話し合いを行い安全な環境を整える様に工夫しています。		